

# 認知症と人権 ～当事者主権の認知症ケア～

☆講師

樋口直美 氏 (レビー小体病と共に生きる本人  
『私の脳で起こったこと』著者)

◆パネリスト

井上英夫 氏 (金沢大学名誉教授)

相山 馨 氏 (富山国際大学 子ども育成学部 准教授)

大川義弘 氏 (城北クリニック 院長)

と き 2016年5月29日(日) 午後1時～午後3時

○当日スケジュール(仮)

午後1:00 樋口直美氏講演 ～内側から見た「認知症」と医療の問題点～

午後2:00 パネルディスカッション・フロアとの意見交換

午後3:00 閉会

ところ **ホテル金沢・2Fダイヤモンド** (金沢市堀川新町1番1号)

(金沢市堀川新町1番1号)

対 象 医療・福祉・行政関係者、関心のある方ならどなたでも

定 員 150人 (定員に達し次第、締め切らせていただきます)

参加費 **無料**

申 込 必要事項 (医療機関・施設名、代表者氏名、申込人数、参加者の職種)  
を明記し、裏面の参加申込書をFAXまたはE-mailにて

主 催 石 川 県 保 険 医 協 会



～ ご案内 ～

「認知症患者は2025年に700万人を突破。65歳以上の5人に1人」「認知症JR事故、家族に監督義務なし最高裁で逆転判決」といった新聞記事、「脳トレ」「認知症予防」「MCIのうちなら予防できる」という週刊誌記事、いずれも認知症になったら大変だぞとの意識が垣間見えます。国は「新・オレンジプラン」で基本的な考え方として「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らしつづけることができる社会の実現を目指す」としています。文字通りそういった社会が実現することは、単に認知症の人が住みやすいだけでなく、障害のある人も含めてすべての人が住みよい社会であるはずで、障害のある人は、「自分たちのことを自分たち抜きにして決めないで欲しい」と一歩先の運動をしています。認知症の人が住みよい社会がどういう社会なのかは、まず認知症の人に聞いてみるべきではないでしょうか。今回の社会保障セミナーでは、当事者から見た認知症医療・介護の問題を深めるために、企画しました。レビー小体病の樋口さん、認知症の人や家族支援に詳しい相山さん、クリニックで認知症診療をしている認知症サポート医の大川さん、そして金沢大学名誉教授の井上さんで討論していきたいと考えています。多数の参加をお待ちしています。



2016年5月29日（日）社会保障セミナー

**FAX用参加申込書**

**FAX：076-231-5156**

**締め切り：5月23日（月）まで**

○医療機関・施設名 \_\_\_\_\_

○代表者氏名 \_\_\_\_\_

○申し込み人数 \_\_\_\_\_ 人

○参加者の職種 \_\_\_\_\_ 人

\_\_\_\_\_ 人

\_\_\_\_\_ 人

主催 石川県保険医協会

TEL(076)222-5373 FAX(076)231-5156 E-mail : iskw-hok@doc-net.or.jp